

3/1: 2002年4月のシステムダウンまでの、みずほ銀行のシステム統合の進め方はどこに問題があったのだろうか。

痛みわけで終わらせずに、経営側が結論を出せる環境を作るべきだった。

システム移行計画の中でリカバリ対策を定義しておくべきだった。

自システムの維持に拘らず、DKISはFRICに応援を頼むべきだった。

新規にシステムを作ればよかった。

負荷テストを実施すればよかった。

経営陣にコンピュータに詳しい人が数人必要だった。

13/1: 2002年4月のシステムダウンまでの、みずほ銀行のシステム統合の進め方はどこに問題があったのだろうか。

- ・お客様優先の考え方ではなく、権力争いにあけくれ、責任分担がはっきりしていないことが原因
- ・誰かがリーダーシップを取るべきだった
- ・プロジェクト発足のまえに、意思決定手順をはっきり決めるべきだった
- ・初期の段階で、統合後の「みずほ銀行」の経営陣を決めて、その人達がリーダーシップをとるべきだった
- ・無理してでも2002年4月1日の統合日を延期すべきだった

こうすれば上手くいったらう方法

- ・旧富士銀行系システムをゲートウェイ経由ではなく、BANCSIに旧第一勧業系と並列で接続できる方法を検討すべきだった

13/1: 2002年4月のシステムダウンまでの、みずほ銀行のシステム統合の進め方はどこに問題があったのだろうか。

- ・もっともSEパワーを持つFRICをもっと活用すべきだった
- ・意思決定者が決まっていなかった
 - 意思決定者を決めておくべきだった
 - 統合方針白紙化をもっと早く判断すべきだった
 - 早く方針転換していればテスト期間が確保できた
 - 3行、4社での痛み分けという方針が適切ではなかった
- ・中立のコンサルティング会社に検討を委託したのが問題？
- ・経営サイドに「コンピュータを知っている人」がいないことで適切な判断が無かった
- ・勘定系システムの顧客データなどをコンバージョンする方針は正しかったのか
 - 苦肉の策ではゲートウェイで実現した
- ・こうすればうまくいった
 - ・一気に統合せず、段階的に統合する方式をとる

13/3:システムダウン後のみずほ銀行のシステム統合の進め方について評価する。

慎重な姿勢で良いと思う。

富士通は勇気があったと思う。

経営者は責任を取りたくなかったと思う。

システムダウンの原因を明らかにしてナレッジとして残すべき。

13/3:システムダウン後のみずほ銀行のシステム統合の進め方について評価する。

- ・慎重にテストを繰り返し、そのために365日24時間稼働のサービスへの接続すらも停止する姿勢は評価する
- ・2002年4月1日のシステムダウンに関する詳細な報告が無い？のは説明責任を果たしていないのでは
- ・最初にシステム系会社の3社を統合してから取り組んだほうが良かったのでは？
- ・利用者にとっては5ヶ月の間に8回ものサービス停止は迷惑

13/3: システムダウン後のみずほ銀行のシステム統合の進め方について評価する。

- ・再度のトラブルを恐れるあまり、これが最適な統合方法なのか議論されていないのでは。
- ・テストに時間をかけすぎたのでは。もっと早く出来たのでは。
- ・再検討プロジェクトが勘定系システムを一本化することをすぐ決めたのは評価できる
- ・先に子会社(FRIC、DKIS、IBJS)を合併させ、元IBJSを中心に自社で進めればコストを抑えられたのでは？

13/5:みずほは今後どのようにシステム化を進めていけばよいだろうか。

1からシステム設計して新言語に置き換える

システム負荷の上限を設定し、それを超えた場合の対応策を策定しておく。

→障害マニュアル・障害手順の作成

→ハードの準備(待機系)

障害発生時の予行演習(シュミレーション)の実施

13/5:みずほは今後どのようにシステム化を進めていけばよieldろうか。

- ・下手に複数ベンダーを関らせないでシステムも片寄せする方向ですめるべき
- ・スケジュールの見積もりが甘い→過去の経験を活かす